

小規模企業景気動向調査

[平成16年4月期調査]

製造業の景況 D.I.がプラスに転じた小規模景況

平成16年5月20日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象:全国約300商工会の経営指導員

調査時点:平成16年4月末

調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体>

4月の小規模企業景気動向調査によると、産業全体の D.I.(景気動向指数・前年同月比)は、売上額がマイナス13.1(前月比プラス13.9ポイント)、採算がマイナス18.2(同プラス12.9ポイント)、資金繰りがマイナス20.1(同プラス10.3ポイント)、業況がマイナス21.0(同プラス14.0ポイント)となった。製造業が食料品、金属、家電を中心に改善が見られ、売上額及び業況 D.I.がプラスに転じた。建設業は公共工事や住宅建設に、小売業は衣料品や食料品に、サービス業は観光地や旅館業に改善が見られ、製造業を牽引役に、全業種・全項目で改善を示し、景気回復は小規模企業へも広がりを見せていると言える。

<製造業>

製造業については、売上額がプラス8.4(前月比プラス18.9ポイント)、採算がマイナス3.7(同プラス16.1ポイント)、資金繰りがマイナス5.8(同プラス16.4ポイント)、業況がプラス1.4(同プラス20.0ポイント)となった。引き続き、受注単価の低下、鋼材等の材料高騰などにより経営環境が厳しいものの、食料品、金属、家電、自動車に好調という回答が多く改善した。業況 D.I.がプラスに転じたのは平成3年8月以来である。

<建設業>

建設業については、完成工事額がマイナス23.2(前月比プラス17.8ポイント)、採算がマイナス33.3(同プラス12.1ポイント)、資金繰りがマイナス39.0(同プラス4.2ポイント)、業況がマイナス41.6(同プラス8.8ポイント)となった。依然として、公共工事は減少しているとする回答が多いものの、リフォームを中心とした住宅建設、災害復旧工事により売上額を牽引に全ての項目で改善した。

<小売業>

小売業については、売上額がマイナス19.9(前月比プラス13.0ポイント)、採算がマイナス19.6(同プラス14.3ポイント)、資金繰りがマイナス21.0(同プラス12.3ポイント)、業況がマイナス26.8(同プラス12.4ポイント)となった。4月より導入された「消費税総額表示」は、消費者が割高に感じるため売上が減少したという回答が見られる。引き続き、大型店等との競争環境が厳しいとする回答が多いものの、季節商品を中心とした食料品、衣料品に加え、高額耐久消費財の売上も見られるなど個人消費の回復を中心に全ての項目が改善した。

<サービス業>

サービス業については、売上額がマイナス17.6(前月比プラス5.8ポイント)、採算がマイナス16.4(同プラス8.9ポイント)、資金繰りがマイナス14.5(同プラス8.4ポイント)、業況がマイナス17.2(同プラス14.4ポイント)となった。引き続き、理容業、洗濯業は価格競争に苦しむとする回答が多いものの、観光地・旅館では行楽シーズンによる改善が見られ、業況を中心に全ての項目が改善した。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比
売上額	27.0	13.1	13.9	10.5	8.4	18.9	41.0	23.2	17.8
採算	31.1	18.2	12.9	19.8	3.7	16.1	45.4	33.3	12.1
資金繰り	30.4	20.1	10.3	22.2	5.8	16.4	43.2	39.0	4.2
業況	35.0	21.0	14.0	18.6	1.4	20.0	50.4	41.6	8.8

業種	小売業			サービス業		
	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比
売上額	32.9	19.9	13.0	23.4	17.6	5.8
採算	33.9	19.6	14.3	25.3	16.4	8.9
資金繰り	33.3	21.0	12.3	22.9	14.5	8.4
業況	39.2	26.8	12.4	31.6	17.2	14.4

注) D.I.(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

問い合わせ先:振興部 振興課

長岡 力 TEL:03-3503-1256(直通)

E-mail: ml-sinkou@shokokai.or.jp